

2008年(平成20年)3月期  
中間決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業



長瀬産業株式会社  
2007年11月12日

## ◆ 目 次 ◆

- \* 当中間期決算概況および通期業績見通し
- \* 中期経営計画「*WIT2008*」の進捗について
- \* 当社のナノテクノロジー事業について

## 当中間期の決算概況

## 中間決算の概況(連結)

(単位:億円)  
(億円未満切捨て表示)

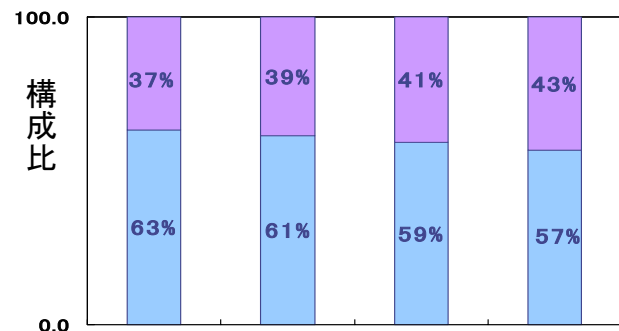
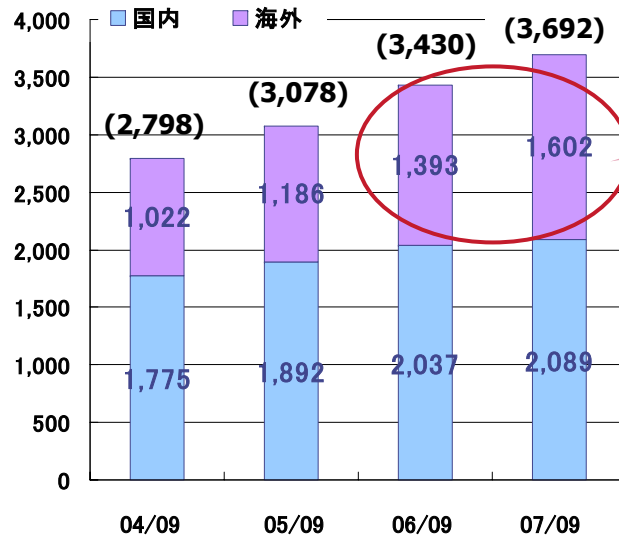
	2007/09	2006/09	増減	前年 同期比	(参考) 7/19修正 見通し	コメント
売上高	3,692	3,430	+ 261	108%	3,760	海外販売好調継続、化成品関連伸長
売上総利益	387	361	+ 26	107%	397	
営業利益	106	106	+ 0	100%	110	単体減益、海外子会社等増益
経常利益	116	114	+ 2	102%	119	
特別損益	▲120	1	- 122	-	-	商品自主回収関連費用▲143億円 株式売却益 +23億円
中間純利益(損失)	▲6	64	- 71	-	▲5	
1株当り当期純利益	▲5円00銭	50円68銭				

## 地域(国内・海外)別売上高

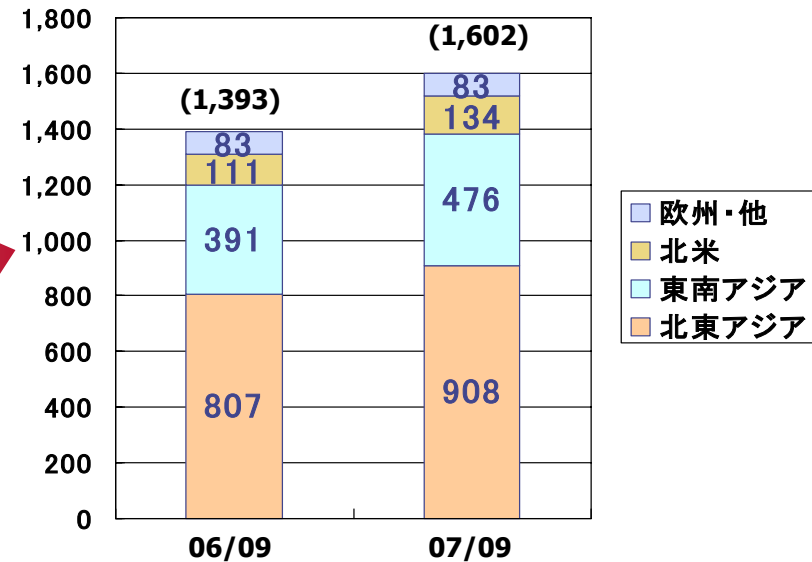
(単位:億円)

売上高3,692億円 前年同期比261億円増加

うち海外売上208億円増



海外売上の地域別内訳(前年同期比)



— 円安の影響はあるものの、海外売上比率が上昇(41%→43%) —

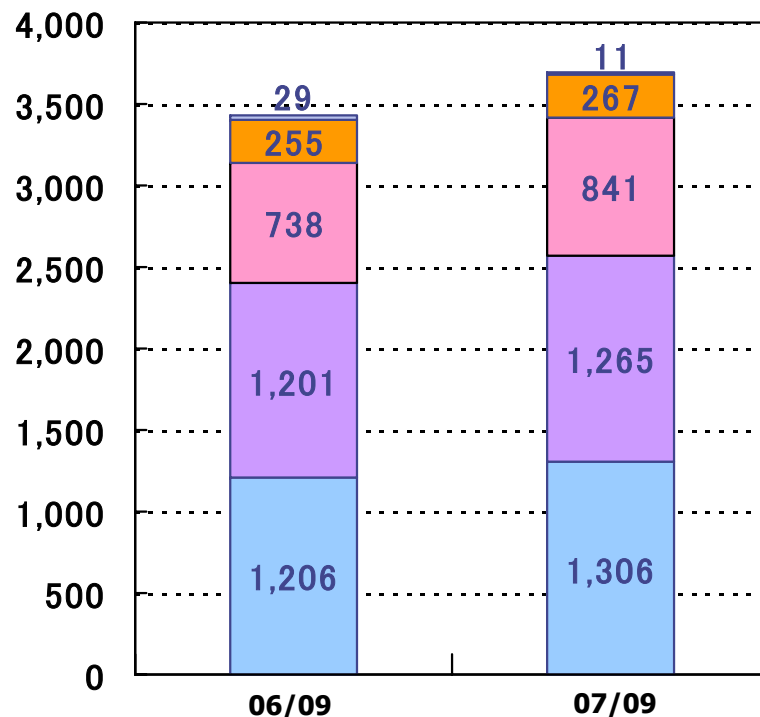
G.CHINA: 電子のディスプレイ関連・周辺ビジネスの大幅伸張  
 化成品、合成樹脂の自動車関連は好調だが、メディア用機能性樹脂や設備は減少

ASEAN : 円安影響あるも、合成樹脂が好調な他、各セグメントとも伸張

北米 : 化成品が好調

## 事業セグメント別売上高

(単位:億円)



	2006年9月	2007年9月
■ 化粧品	1,206	1,306
■ 合成樹脂	1,201	1,265
■ 電子	738	841
■ ライフサイエンス	255	267
■ その他	29	11

### 事業セグメント別の売上概況 (前年同期比)

#### 化粧品 + 99億円 (108%)

- 有機合成原料を扱うスペシャリティケミカル事業はナガセムテックス製品を中心に好調
- 機能性色素等のPDP関連は低調だが、プリンタ・複写機関連順調
- 機能化学品は樹脂関連およびデナフィルター等が好調

#### 合成樹脂 + 64億円 (105%)

- 自動車関連は華南地域ほか全般的に好調
- 海外での精密機器用樹脂はGチャイナ、アセアンでいずれも堅調
- Gチャイナでのメディア用機能性樹脂や設備が減少

#### 電子 + 103億円 (114%)

- 液晶関連の部品ビジネス大幅に伸長
- 半導体等の精密研磨関連好調
- 液晶・半導体用薬液、変性エポキシ等は好調、薬液関連装置は低調

#### ライフサイエンス + 12億円 (105%)

- 医薬品原料、中間体関連は伸張
- 化粧品は一部新商品が貢献するが、健康食品関連は伸び悩み

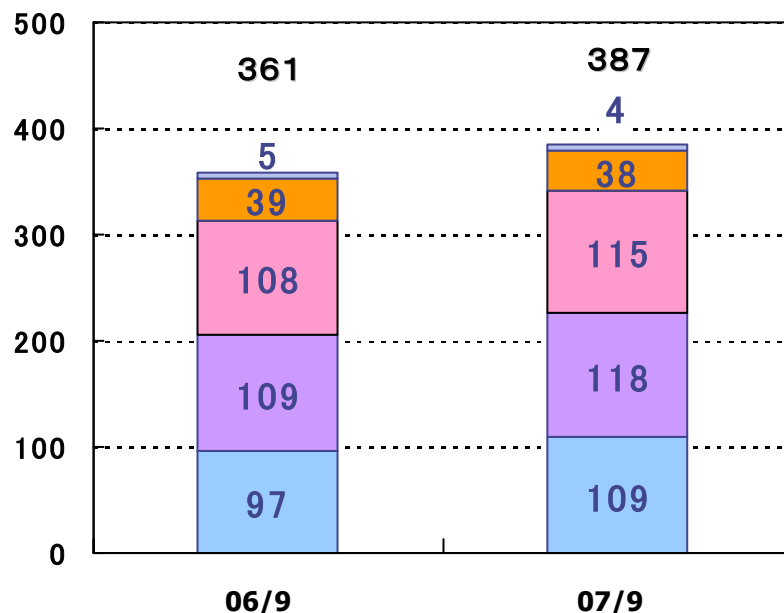
#### その他 ▲17億円 (39%)

- DVDプレーヤー等の機器販売は第2Q以降停止
- DVD映画ソフトなど一般消費者向け直接販売事業 (TRANSTECHNOLOGY) の事業撤退(前年下期)

セグメント別売上総利益

売上総利益 387億円 前年同期比 26億円増

(単位:億円)



セグメント別売上利益概況 (前年同期比)

化粧品 + 11億円 (112%)

合成樹脂 + 8億円 (108%)

電子 + 7億円 (107%)

ライフサイエンス ▲ 1億円 (97%)

その他 ▲ 0億円 (92%)

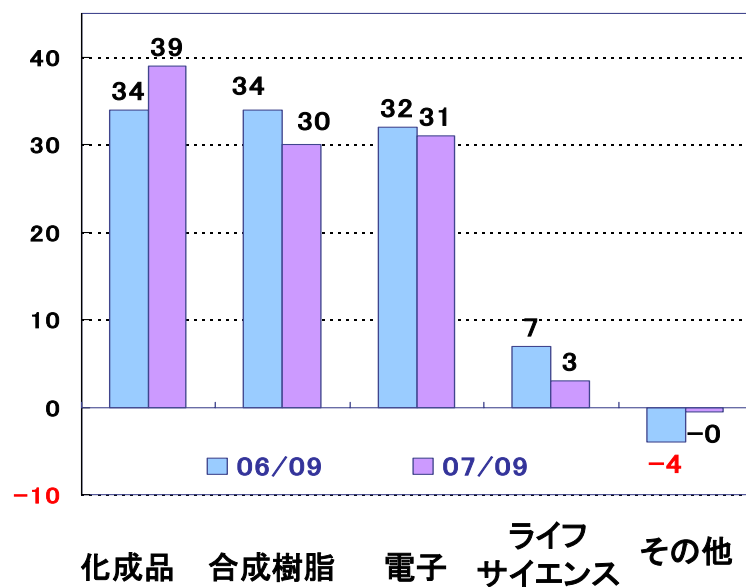
	06/9月期	07/9月期
化粧品	97	109
合成樹脂	109	118
電子	108	115
ライフサイエンス	39	38
その他	5	4

## 営業利益

(単位:億円)

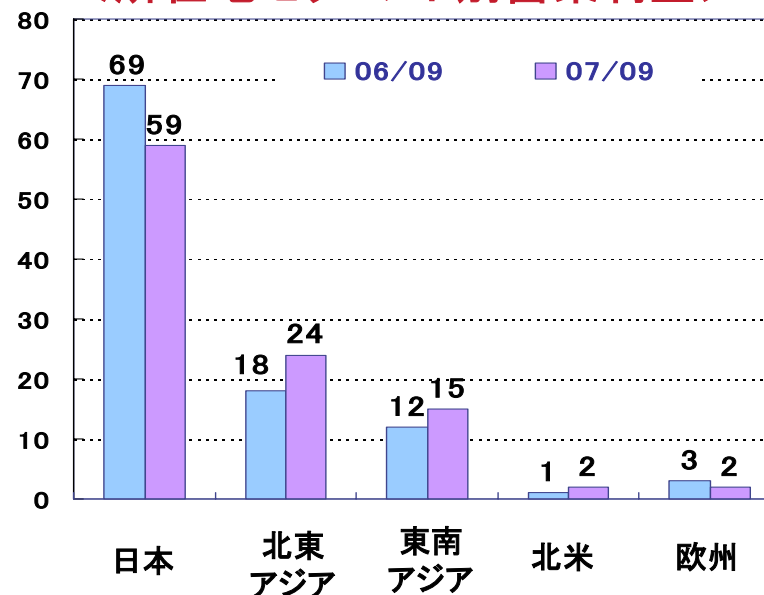
- 106億円 前年同期比100% 26百万円増加
- 単体の年金数理計算上差異の償却により、各セグメント及び日本国内で▲8億円の影響

### <事業セグメント別営業利益>



- 化成品が上期の業績を牽引。自社製品の販売増で利益率の改善が影響。
- 合成樹脂は人員配置を強化しており全般にコスト増により減益。
- 電子は昨年上期が液晶関係装置が好調だった影響で減益。海外中心に足元は固い。
- ライフサイエンスは関係会社が製品の切り替え時期で減少。

### <所在地セグメント別営業利益>



- 日本国内は、単体の人件費の増による影響が大きい。
- 北東アジアは合成樹脂が横ばい、化成品・電子は増益で全体に利益を牽引。増加額は大きいですが、人員配置の強化による、一般管理費の増加も影響。
- 東南アジアは各セグメントとも増益。
- 北米は金型事業の赤字続くが、化成品・電子で増益。
- 欧州は半導体製造用装置売上が下期集中のため上期は減益。



## 営業外損益・特別損益

(単位:億円)

### <営業外損益>

	07/9	06/9	増減	前年同期比
営業外損益	10	8	1	123%
金融収支	2	3	▲0	78%
その他	7	4	2	160%

### <特別損益>

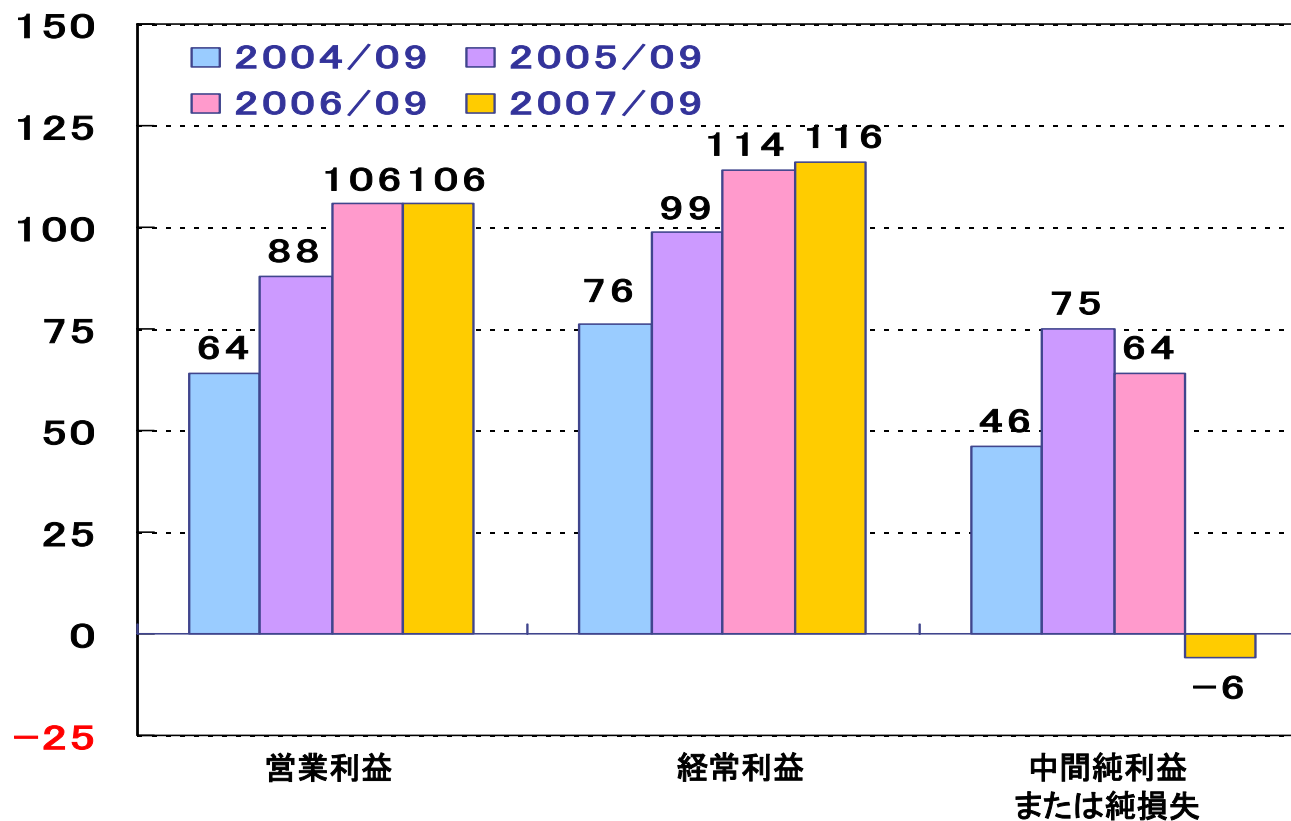
	07/9	06/9	増減
特別利益	26	3	23
固定資産売却益	0	0	▲0
投資有価証券処分益	26	2	23
特別損失	146	1	145
商品自主回収関連費用	143	-	143
その他	3	1	2

## 経常利益・中間純利益または純損失

(単位:億円)

経常利益: 116億円 前年同期比101% 2億円増加

中間純損失: ▲6億円 71億円減少



## 主な貸借対照表の増減

① 運転資金増加

② 商品自主回収関連の影響による繰延税金資産の増加、回収引当金の計上

③ 自己資本比率低下

(単位: 億円)

《資産》	07/9	07/3	増減	《負債及び純資産》	07/9	07/3	増減
現金及び預金	251	219	+ 32	支払手形及び買掛金	1, 395	1, 414	▲ 19
受取手形及び売掛金	2, 280	2, 180	+ 100	短期借入金	203	142	+ 61
棚卸資産	420	433	▲ 13	商品自主回収引当金	88	—	+ 88
その他流動資産	147	82	+ 64	その他流動負債	225	214	+ 11
有形固定資産	336	318	+ 18	長期借入金	96	62	+ 33
無形固定資産	29	29	+ 0	退職給付引当金	67	68	▲ 1
投資有価証券	785	880	▲ 95	その他固定負債	179	209	▲ 29
その他固定資産	82	83	▲ 1				
				株主資本	1, 693	1, 709	▲ 15
				(うち自己株式)	(▲ 53)	(▲ 54)	(+ 0)
				評価・換算差額等	310	341	▲ 30
				新株予約権	1	1	+ 0
				少数株主持分	71	64	+ 6
				(自己資本比率)	(46.2%)	(48.5%)	(-2.3%)
資産合計	4, 334	4, 228	+ 105	負債及び純資産合計	4, 334	4, 228	+ 105

## キャッシュフローの状況

(単位:億円)

- ① 運転資金の増加、回収関連費用※や法人税等により営業キャッシュフローは51億円の支出。  
 ② 有形・無形の固定資産取得に伴い、投資活動によるキャッシュフローは12億円の支出。  
 ③ 回収関連費用支出及び今後の投資支出予想から、長期借入等により資金調達。

※商品自主回収関連支出： 第2四半期までで44億円の支出。

	07/09	主な内訳	06/09
営業活動による キャッシュ・フロー	▲51	税前利益 ▲4億円 減価償却費 23億円 運転資金 ▲90億円 商品自主回収引当金 88億円 投資有価証券等の売却損益 ▲23億円 法人税等の支払額 ▲39億円 等により	64
投資活動による キャッシュ・フロー	▲12	有形固定資産の取得 ▲30億円 投資有価証券の売却 39億円 無形固定資産の取得 ▲11億円 その他 ▲10億円 等により	▲26
財務活動による キャッシュ・フロー	76	短期借入金の増加 31億円 長期借入金の増加 59億円 配当金の支払 ▲13億円 等により	▲62
現金及び 現金同等物の増減	32	新規連結による増 4億円 換算差額 16億円	(▲26)
現金及び 現金同等物の期末残高	251		210

## 主な連結子会社の業績

(単位:百万円)

	社名	売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比	中間純利益	前年同期比
単体	長瀬産業	254,390	103%	3,539	88%	-2,751	-%
製造会社	ナガセケムテックス	13,413	110%	1,335	97%	689	81%
	東拓工業	3,488	96%	186	67%	157	80%
販売会社	長瀬カラーケミカル	6,722	97%	90	116%	50	140%
	ナガセケミカル	7,165	105%	93	81%	47	86%
	ナガセプラスチック	7,222	114%	27	69%	5	30%
海外	ナガセ香港	41,011	155%	845	131%	675	121%
	ナガセシンガポール	17,766	112%	332	79%	320	87%
	ナガセタイランド	16,194	125%	804	144%	560	141%

**通期の業績見通し**  
**2008年3月期**

## 2008年3月期(通期)業績見通し

(単位:億円・%)

	2008年3月期 (中間期時点見通し)	2008年3月期 (7/19修正見通し)	2007年3月期 (実績)	前年比 (%)
売上高	7,520	7,520	7,013	107%
売上総利益	795	795	736	108%
営業利益	219	219	216	101%
経常利益	236	236	232	102%
当期純利益	71	71	135	52%

## 2008年3月期セグメント別売上高の業績見通し

(単位:億円)

	2008年3月期 (中間期時点見通し)	2008年3月期 (4/30見通し)	2007年3月期 (実績)	前年比
化成品	2,660	2,630	2,470	108%
合成樹脂	2,575	2,550	2,446	105%
電子	1,700	1,690	1,507	113%
ライフサイエンス	565	595	535	105%
その他	20	55	51	39%
合計	7,520	7,520	7,013	107%



## 中期経営計画「WIT2008」の進捗について

知恵をビジネスにする技術・情報企業

**W --- Wisdom**

**I --- Intelligence**

**T --- Technology**

中期経営計画「WIT2008」の位置づけ

変革

推進

拡大・強化

WIT2000

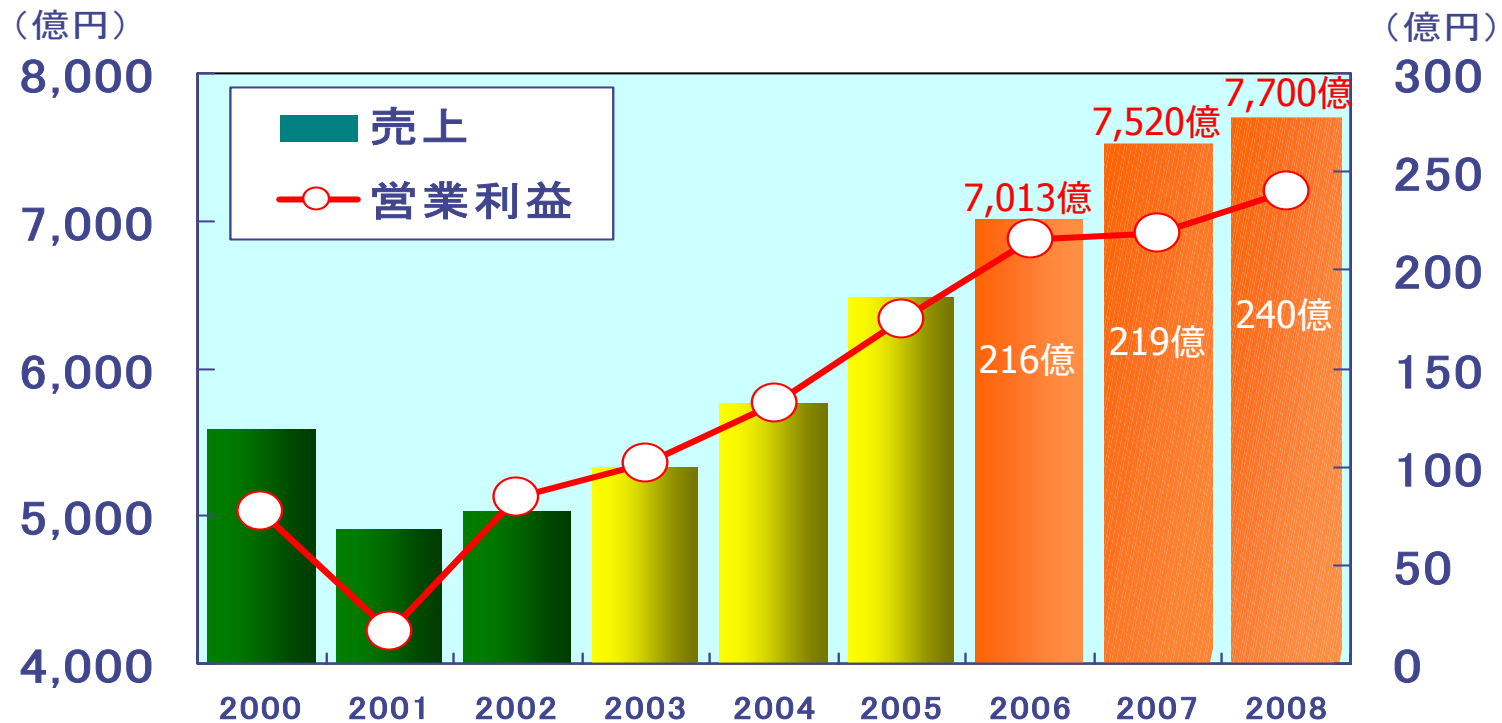
WIT21

WIT2008

- 経営基盤変革
- グループ経営開始

- 事業方向性の明確化
- 事業基盤の強化
- 経営基盤の強化

- 体質強化
- ナガセらしさの継承
- 事業ポートフォリオ戦略の深化



## 中期経営計画「WIT2008」基本戦略

## 持続的成長への体質強化

重点分野への積極投資

事業基盤の拡大

高収益への構造転換

## 事業ポートフォリオ戦略の深化

健全な財務体質の維持

連結経営体制の整備

リスクマネジメントの徹底

## 内部体制の強化

現場主義

人材の(質・量)充実

技術・情報力の強化

## ナガセらしさの継承

## 「WIT2008」 主な施策

### ■重点分野への積極投資

- 長瀬国際電子有限公司が中国・華南地区に新拠点設置
- ナガセケムテックス(株)福知山事業所でのリン脂質の量産用設備を新設

### ■事業基盤の拡大

- 中国の繊維関連事業を統括する合併会社の設立決定  
(会社名:オー・エヌ・コラボ(株) 長瀬産業(株)50%、オー・ジー(株)50%出資)
- ベトナムでの合成樹脂着色事業の合併会社の第二工場建設開始

### ■高収益への構造転換

- ナノグラム社(米国)への投資決定
- ナガセケムテックス(株)にて、
  - ・ナノグラム社(米国)のナノ粒子製造設備を新設
  - ・リサイクルプラントと剥離剤設備導入

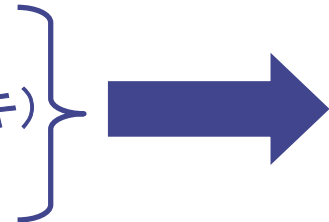


長瀬国際電子有限公司(深圳市)

投資総額 300億円目処(3年間)

「WIT2008」施策：ナガセアプリケーションワークショップ(NAW)設立


- ・合成樹脂
- ・コーティング(塗料・インキ)
- ・繊維加工



技術サービスを一箇所に集約

取引先との共同開発、技術サービスの拠点  
 「色」に関する提案、評価、研究  
 サンプルライブラリー

専門の  
 技術スタッフ常駐



協業体制コーディネート  
 新規顧客開拓

所在地：兵庫県尼崎市  
 構成：
 

- ・樹脂実験室
- ・コーティング実験室
- ・繊維加工実験室
- ・サンプルライブラリー

 稼動：2007年7月



外観図

## 「WIT2008」 主な施策

### ■健全な財務体質の維持

- ・キャッシュフロー重視、営業キャッシュフロー改善
- ・資産の見直し継続

### ■リスクマネジメントの徹底

- ・事業構造の転換に伴う新たなリスクの認識・把握・抑制
- ・リスクマネジメント体制の継続的な見直し
- ・内部統制システム整備への対応として「内部統制推進委員会」を設置

### ■連結経営体制の整備

- ・グループ経営の深化と運営体制の整備

### ■人材の質・量の充実

- ・「多様性」と「専門性」の確保と育成  
⇒外国人幹部の育成強化研修プログラム  
「ベーシック・マネジメント・プログラム」  
「ゼネラル・マネジメント・プログラム」 の実施

ポスト「WIT2008」の事業環境

石油化学市場

激しい競争市場

製品の均質化  
競争の日常化

価格競争の激化

ナガセ主導型事業の推進

新素材/  
無機・有機の融合

新しい機能・価値を創造

高付加価値商品

熾烈な競争  
から抜け出す

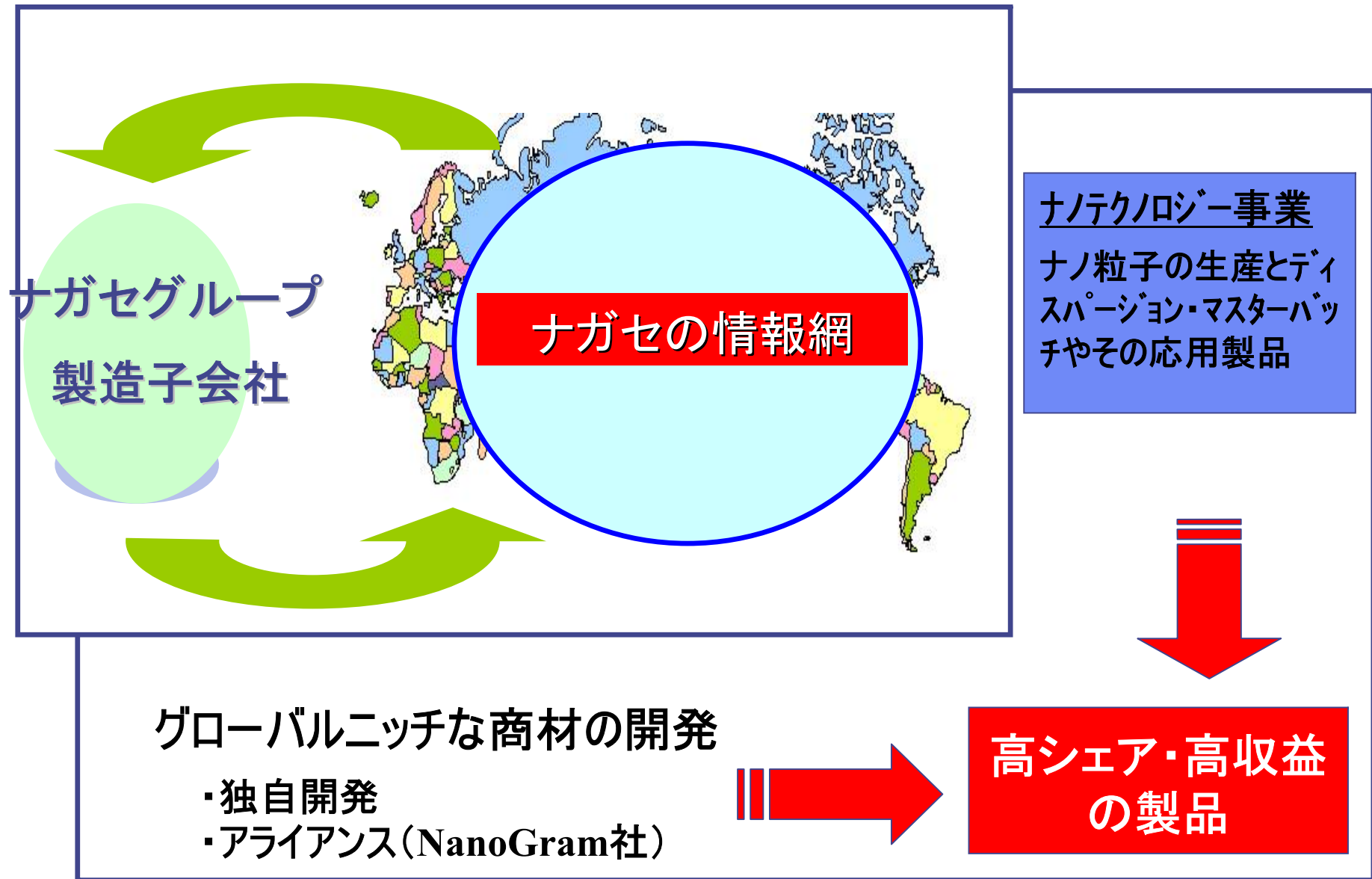
Ex. ナノテクノロジー事業推進により  
競争回避、収益確保

## 当社のナノテクノロジー事業について

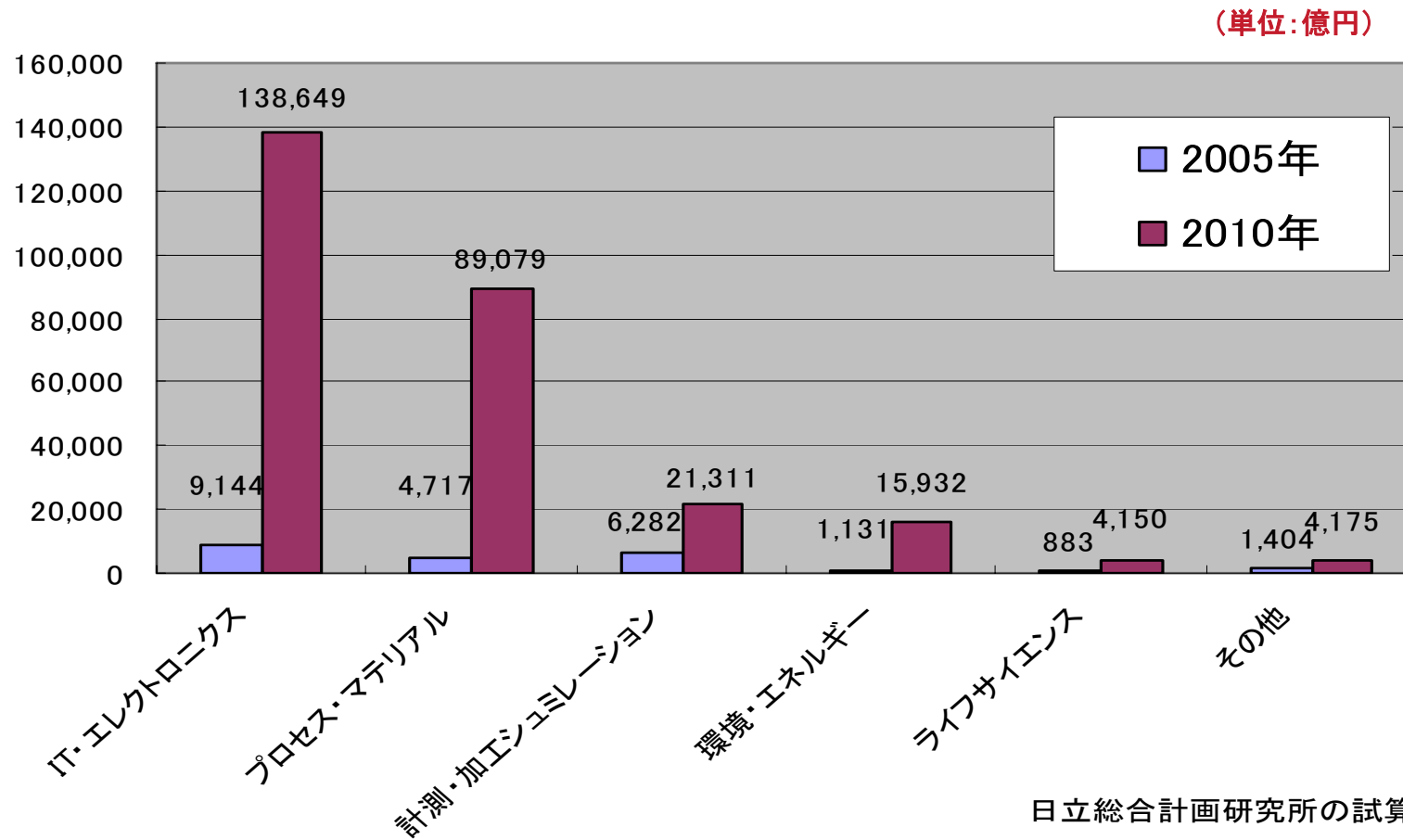
スペシャリティケミカル事業部 事業部長

執行役員 三橋 一夫

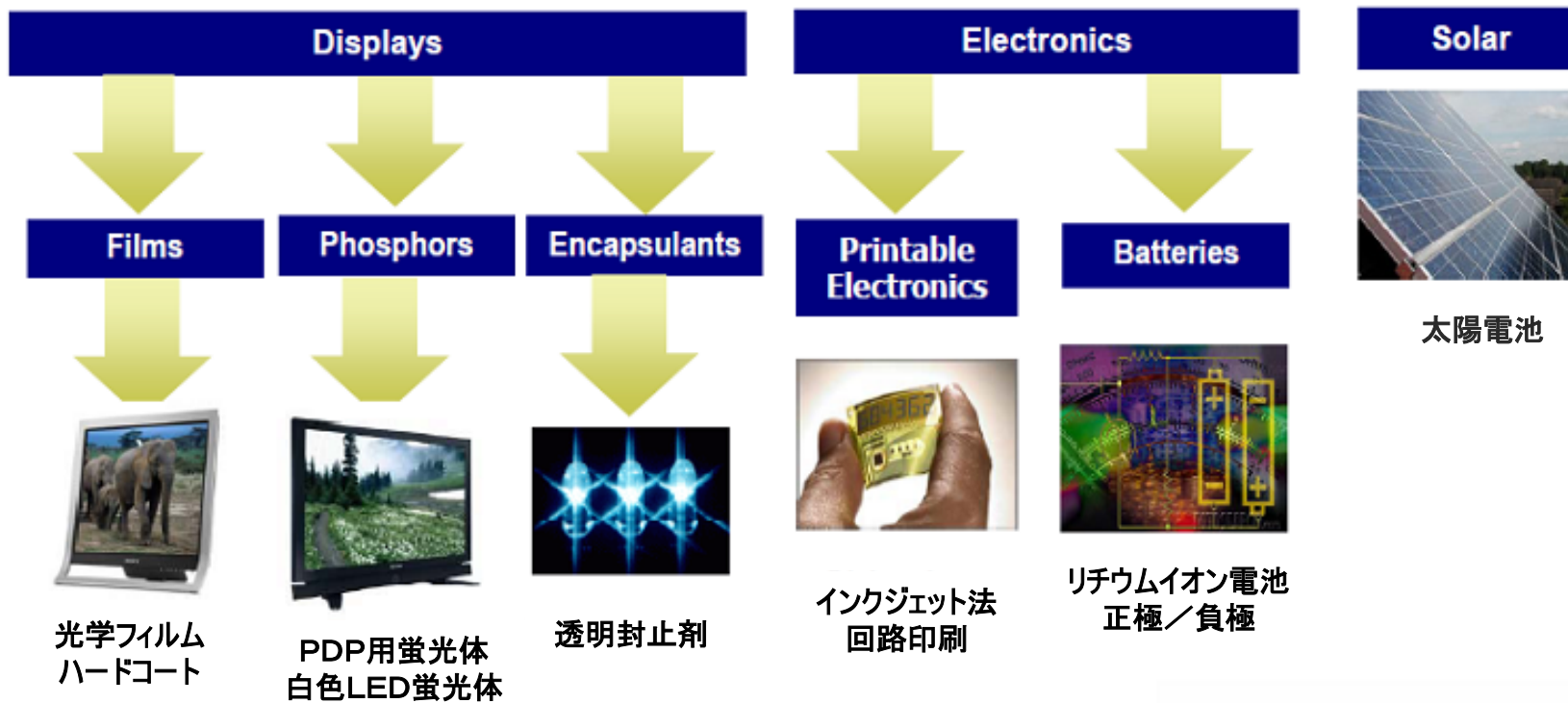




## ナノテクノロジーの市場規模は27兆円(2010年)



期待される応用分野



NanoGram社とのアライアンス



投資

装置使用ライセンス契約

販売代理店契約



- ☆ ナノ粒子の生産・応用技術
- ☆ 自社製品との融合
- ☆ 技術サービス

- ☆ 国内ユーザーへナノグラムの技術紹介
- ☆ 技術のライセンスング
- ☆ ナノ粒子応用製品の販売

ナノ粒子の生産とディスプレイ  
ン・マスターバッチやその応用開発

高シェア・高収益の製品

## NanoGram社の概要

本社	米国、カリフォルニア州ミルピタス
設立	1996年
従業員	72名
社長・CEO	Dr. Kieran Drain
副社長・CTO	神部 信幸 (Dr. Nobuyuki Kambe)

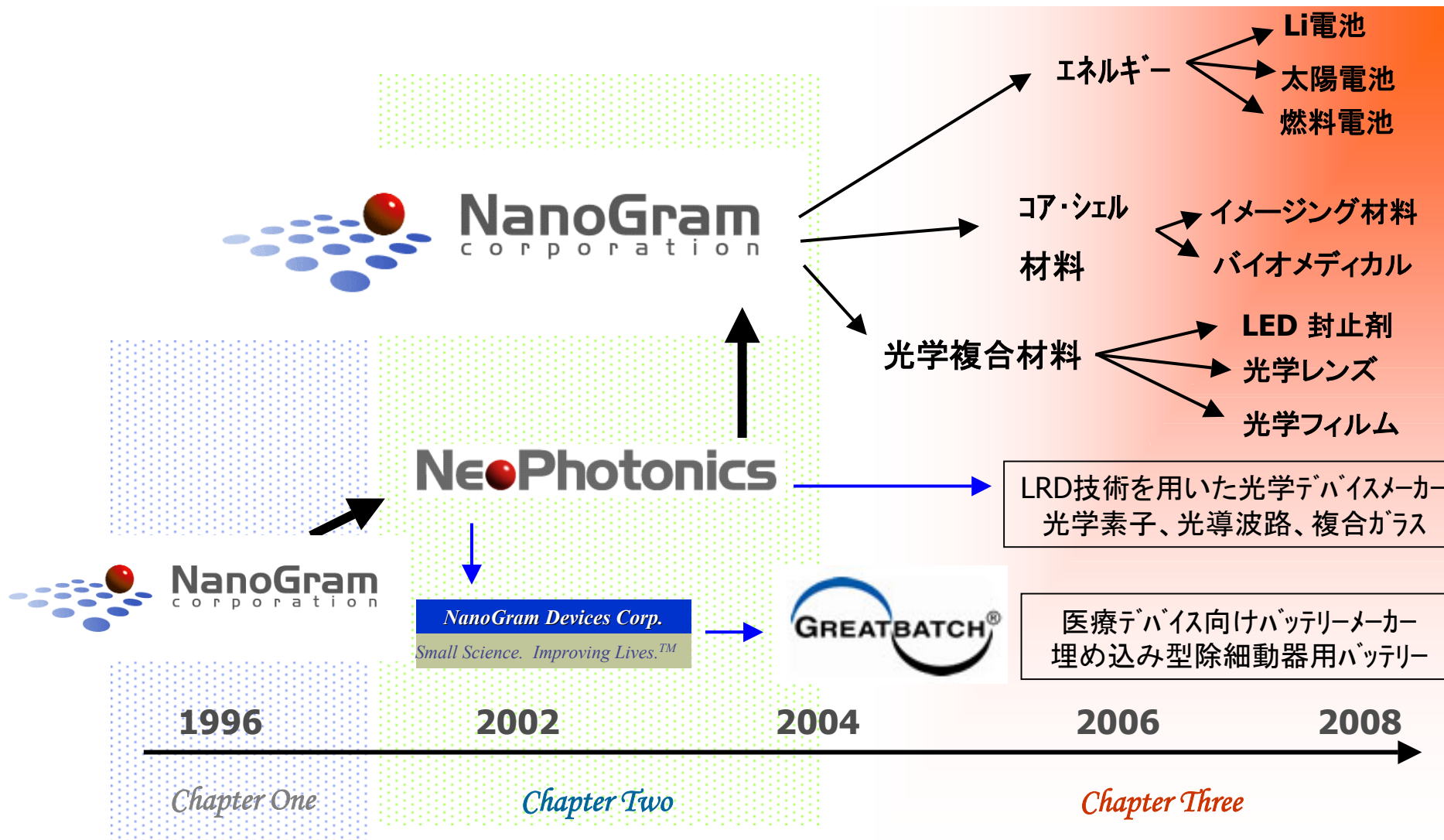
## 出資状況

Technology Partners  
ATA Ventures  
Bay Partners  
Nth Power  
Rockport Capital  
Harris & Harris

HISTORY

- 1996年 設立
- 2002年 NeoPhotonicsに社名変更  
電池事業をGreatbatch社へ4800万ドルにて売却
- 2004年 光素子事業をNeoPhotonics社としてスピンアウトさせ、  
再度NanoGramに社名変更
- 2006年 当社と契約を締結、日本での本格的マーケティング開始

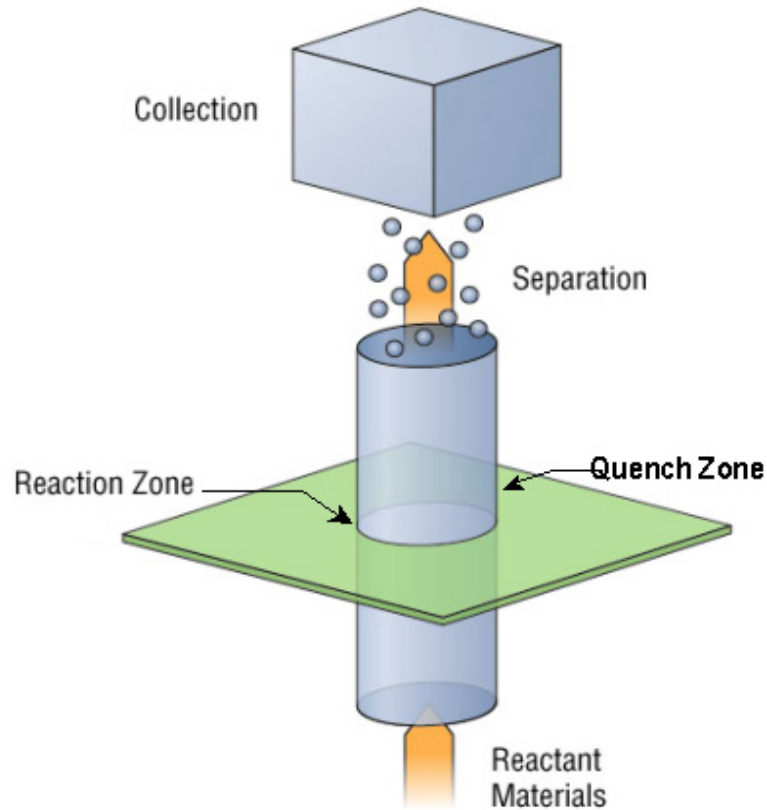
NanoGram社の歴史



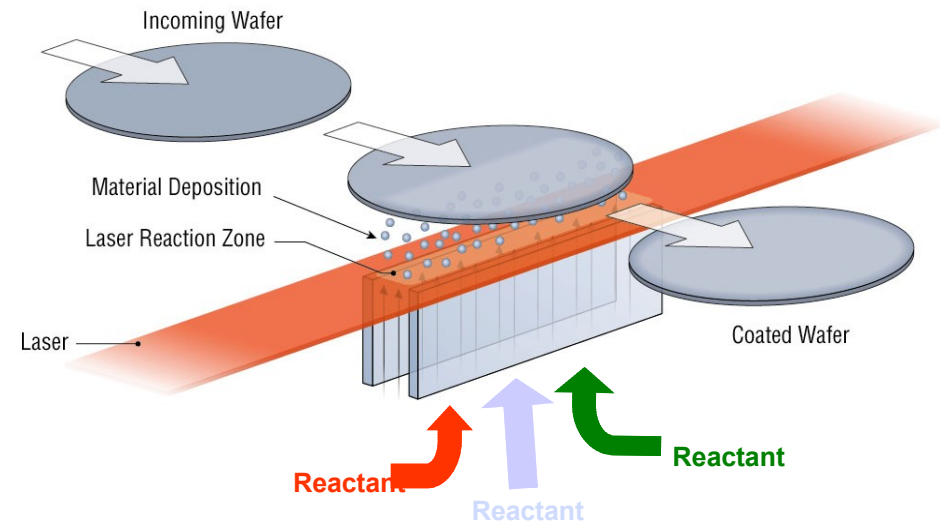
NanoGram社の技術概要

レーザー熱分解法

NPM (Nano particle manufacturing)  
超微粒子製造法



LRD (Laser Reactive Deposition Process)  
レーザー反応蒸着プロセス



## NPM™プロセスで製造したナノ粒子の特徴

◆ 15～200nmで粒子径をコントロールできる

◆ 粒度分布がシャープ

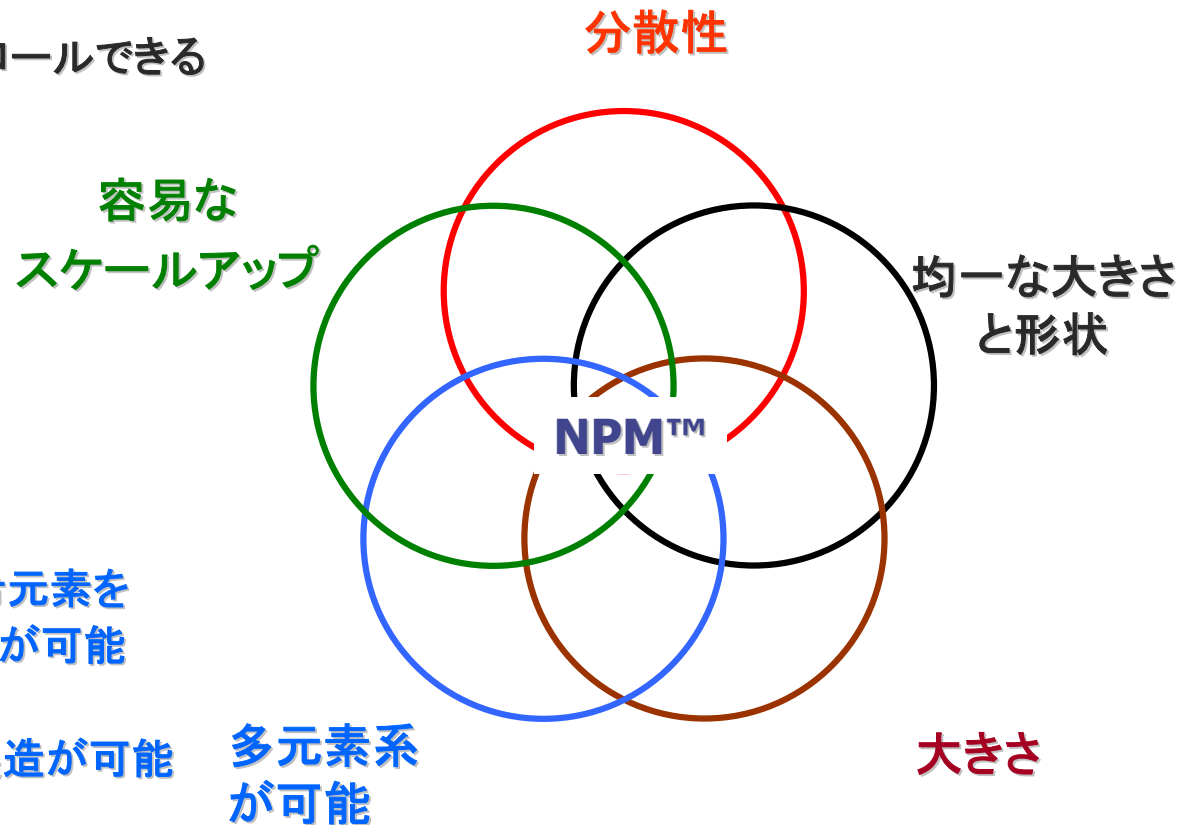
◆ 結晶形がコントロールできる

◆ 優れた分散性

◆ 酸化物、窒化物、および希元素をドープしたナノ粒子の製造が可能

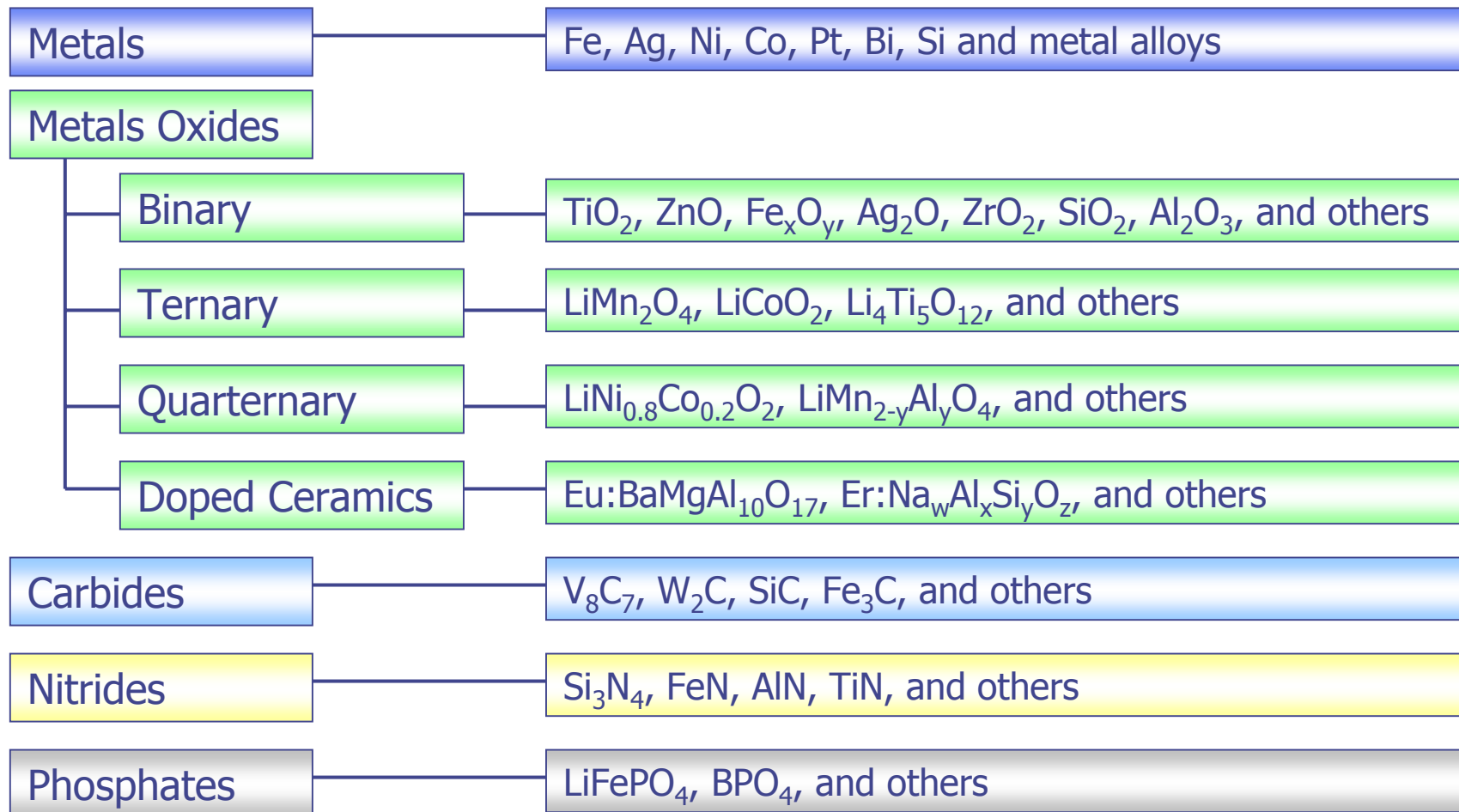
◆ 多元素系金属酸化物の製造が可能

◆ スケールアップが容易





## 単一成分だけでなく多元化が可能



# 知恵をビジネスにする技術・情報企業



## 長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2007年11月12日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。